

【私のシヨウガナイ楽習】

伊藤 敏

私のシヨウガナイ楽習は沢山ある。曰ク土にせかされる菜園楽習(えんどう豆、ほうれん草、苺、春大根、春菊、生姜、紫蘇、ラッキョウ、茄子、トマト、キュウリ、白瓜、西瓜、南瓜、落花生、十六、里芋、トウモロコシ、ごぼう、小豆、大豆、かぶ、白菜、馬鈴薯など)雑草どもに追いかけて回されて畑を這いずっている。

それから、山野草と盆栽(サギ草、中国春蘭、マクシラリア蘭、姫沙羅松、さつきなど)を手なづけているのだが折角精出しても、時々へまをするものだから枯らしたり、病気にしたり、球根の冬越しに失敗したりする。

刻字・夏狩の謙ちゃんにももらった材料、長明先生に頂いた彫刻刀で雨の日、暑い日にコツコツするが、先生の長重先生に笑われる。思うような作品はできないが、天袋にしまっておいた先人の掛軸やら色紙を刻字できるのが嬉しい。

夜は会議、仲間との飲食会議、謡の練習。謡は今年も四月二十八日水道橋の宝生能楽堂で山姥の能舞台があった。シテは九州人吉の角田さん、ツレが北村さん、ワキは森常好先生、囃方は人間国宝の亀井、金春、藤田、住駒の四先生。アイは山本東次郎先生。地謡に佐野、三川、田崎、山内の四先生と我等都留宝生会の小俣、遠藤、秋山さんと不肖私、前年の四月に山姥の地謡の学習を言い渡されて、いつものように古典文学の謡曲集を読み始めた。長い暗誦が厳しいサボリを入れて読書百遍が二度できる。でも八十分の座りになる、座りきれぬだろうか、その方が心配になる。

平成十二年は、鉄輪で六十分の座りだった。宝生閑先生のあの迫力のある声に体が震え足の痺れはどこかへ飛んでいったのを覚えている。後ろにいた高橋勇先生に「つらかったら足を崩していいよ」優しい声に励まされたのが嬉しかった。

今年も、修練しないと座り切れないかもしれない。「これが私のシヨウガナイ楽習」山姥の二節「邪正一如と見るときは色即是空そのままに佛法あれば世法あり煩惱あれば菩薩あり佛あれば衆生あり……柳は緑花は紅の色々」そんな文章に見せられながら成る程、ソーカと思い、人生の哲理をその中に見いだしながら、今年の八十分の生涯学習の一駒が無事終わった。

何事によらず楽しみながら息づいている自分を感じながら残された日々を生きたいと思う。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



【俳句カルタに夢を託して】

都留市俳句連盟俳画の会代表 山田 美佐子

平成十一年俳句連盟総会において、サイドアートとしての俳句を勉強しようということで、希望者を募集、全く絵筆を持つたことのない人達の集まりでしたが、自分の俳句に絵を、そして作品に仕上げるという全く新しい試みに向かって精進してきました。

俳画を画く心得として、多筆で表現されるものを減筆し、一部で全体を象徴、余白を生かして大自然を彷彿と表現する最も簡素を尊び、その他諸々の作品上の制約もありますが、稚拙を愛する所あり、巧く描かないほうが良いともいわれ、楽しみながら研鑽を重ねてきました。

今までに、ふれあい全国俳句大会、文化祭、市内の金融機関ロビーなどに展示発表の場を持ち、活動の場を展げてきました。

今年都留市俳句連盟では三十周年の節目を迎え、今秋に向けて連盟のあゆみ、俳人人名録の編纂など多彩な行事の準備に追われているところです。その中の一環として、俳画部門として、子ども達に俳句に親しんでもらい、次世代へ繋ぎ俳句人口の拡大に役立てようということで、目下俳句カルタ作り挑戦、先ず市内芭蕉句碑及び、一茶他子ども達に親しみやすい句を連盟全員で五十三句を選び出し、俳画部門で全く未知の分野の諸々を試行錯誤の手探りで絵を画き字を書き一枚一枚すべて手造りで仕上げるという大変な作業に入り、現在では八十歳過ぎた方々も元気に参加、和氣満々で頑張っているところです。



俳句カルタ作成の様子

出来上がりしましたら、市内幼稚園、保育園、小中学校へも配り、会員もその場へ出向き、一緒に遊びたいと望んでいます。また、そのカルタでごく自然に子ども達に日本語の言葉の美しさを理解してもらい、カルタ大会を行うことが、私達の夢です。皆様もお仲間になりませんか。三世代で楽しめる大会になると確信しております。